

記 録

岡山県におけるネコノメソウ属 (その 1) —初記録のチシマネコノメソウと マルバネコノメソウの追加産地—

岡山県自然保護センター 地職 恵*
兵庫県姫路市 高見 祐一

**Genus *Chrysosplenium* in Okayama Prefecture (Part 1)
— First habitat record of *C. kamtschaticum* Fisch. ex Ser.
and an additional habitat record of *C. ramosum* Maxim. —**

Megumi CHISHIKI, *Okayama Prefectural Nature Conservation Center*
and
Yuichi TAKAMI, *Himeji-city, Hyogo-prefecture*

キーワード：チシマネコノメソウ, マルバネコノメソウ, ネコノメソウ属, 岡山県, 生育地.

はじめに

ユキノシタ科ネコノメソウ属の植物は溪流沿いなどの湿地に生育し、早春に開花する。裂開した果実（蒴果）の形を猫の目の瞳孔に見たてたことからそう呼ばれるが、開花後の経時的な変化が著しく、変異の幅も広く、種を同定できる期間も短いなど、その分類は難しいものが多い。

岡山県野生生物目録2009（岡山県編, 2009）には、岡山県に自生するネコノメソウ属の植物として、9種2変種が掲載されている。

このたび著者らは、岡山県からはまだ未報告のチシマネコノメソウと、今まで県内の生育地は1ヶ所とされてきたマルバネコノメソウの追加産地を確認できたため、それらの生育地と生育状況について報告する。

著者のひとり高見は、かねてよりネコノメソウ属の植物に興味を持ち、春には未見のネコノメソウを探して歩くことを楽しみにしている。本報告

の2種は2010年4月に高見が見いだし、2011年春に地職が同定した結果、チシマネコノメソウとマルバネコノメソウであることを確認した。その後開花期、果実期、越冬前の生育状況を観察し、以下にまとめた。

なお報告に使われた標本は、岡山県自然保護センターの標本庫に収められている。

観察結果

1) チシマネコノメソウ

Chrysosplenium kamtschaticum Fisch. ex Ser.

2010年4月18日、ブナ帯の沢沿いに生育している本種が見いだされ、翌2011年5月に採集した植物体を観察した結果、以下の特徴が大場（1982）と合致したため、チシマネコノメソウと同定した（図1～12）。

1) 植物体は花序の分岐点と葉腋を除き全株無毛, 2) 根生葉（4–6枚）が束生したロゼットは花時まで残る, 3) 花茎は花時3–20cmで、淡緑色または紅色を帯びる, 4) 茎葉は無葉または1対が対生（まれに互生）、扇状で3–10mm, 基

*連絡先：fvbs5493@mb.infoweb.ne.jp

部はくさび型で葉柄に流れ、縁には5-7個の微細な低鋸歯がある、5) 花後に根生葉(まれに茎葉)の腋から細長い地上性の走出枝を出し、その先端に根生葉をつくり越冬する、6) 花には花弁はなく径3-4mm、ガク裂片は卵形で黄緑色、長さ約1mm、花時に平開する、7) 苞は卵形~円形で先端は丸く基部はくさび形、茎葉より大きい、8) 雄しべは8個で花時に直立、裂開直前の葯は汚紅色または黄色、9) 花盤は淡黄緑色で目立つ、10) 花柱は花時にきわめて短く直立する、子房は下位、11) 蒴果は斜開し、2個の心皮は大きさが異なる、12) 種子は楕円形、長さ0.8mmほどで十数条の稜がある。

継続観察の結果、県内の開花期間は4月中旬から5月中旬頃までであった。花の後は順次蒴果ができ、基部の腋から地上性の細長い走出枝を盛んに延ばし、先端に小さな根生葉を生じた。10月の調査時には、5cm前後に成長した越冬前のロゼットが見られた。

県内にはチシマネコノメソウとよく似たイワネコノメソウ *C. echinus Maxim.* が生育する。イワネコノメソウは2007年に見いだされて(地職, 2008, 2010) 県内にも生育することが判明した種である。チシマネコノメソウは北海道・本州、主に近畿地方以北の日本海側、イワネコノメソウは関東以西の本州・四国・九州の主に太平洋側に分布が知られるが、両種の生育が重なる地域では、その見分けに注意が必要である。花時のガク裂片は平開し、裂開前の雄しべの葯は赤色~赤橙色になるなど両種の姿は酷似する。明らかな違いは、チシマネコノメソウは花時に根生葉が残るのに対し、イワネコノメソウは消失することである。また、イワネコノメソウは葉や苞の鋸歯が鋭く、走出枝の先に根生葉を作らないこと、種子の稜に長い棍棒状の突起があることなどで区別することができる。

生育地と生育状況

生育地は鏡野町(旧上斎原村北部)の鳥取県境に近い、標高830m~950mの南向き斜面の溪流沿いである(生育地保護のため詳細な山地名は控えた)。ブナが主体の落葉広葉樹林で、スギや一部チシマザサも見られるが、林床は比較的透いた状

態が保たれている。(図13)。

飛沫を浴びるような岩の側面や上面(図14)、沢べりの湿った腐植土の上(図15, 16)などに生え、小さい群落では数株、大きな群落では1mほどの広がりのもので、点在して生育するようすが観察できた。湿った岩上に生えるコケ植物の間には、特にまとまった群落をつくっていた。沢から数メートル以上離れた場所では、湿った環境であっても今のところ確認できていない。同所的にキンシベボタンネコノメソウやサンインシロカネソウ、コチャルメルソウ、ミズタバコ、ウワバミソウ、カンスゲなどが生育している。

考 察

チシマネコノメソウは花時にも目立たず、ボタンネコノメソウのようにガクが色づくことも無いため非常に見つけにくい種である。生育していても見過ごされてきた可能性があり、今後中国山地の沢沿いなどでは見つかる可能は大きいと考える。

チシマネコノメソウは、岡山県野生生物目録2009(岡山県編, 2009)には掲載されておらず、岡山県の初記録となる。従って、県内には10種2変種の生育が明らかとなった。

2) マルバネコノメソウ

Chrysosplenium ramosum Maxim.

岡山県では本種は近年になって報告された種(地職, 2008; 2010)であるが、生育数がきわめて少なく、安定した存続が危惧されたことから、岡山県版レッドデータブック2009植物編(岡山県編, 2010)により絶滅危惧I類に指定されている。高見は2010年春に、鏡野町内の沢沿いでマルバネコノメソウではないかと思える群落を発見した。しかし岡山県版レッドデータブック2009植物編(岡山県編, 2010)には、マルバネコノメソウの生育地は津山市の一カ所と記されていたため、鏡野町内で見つけた個体の同定を地職に依頼した。2011年春に採集した植物体を観察したところ、以下の特徴を確認し、マルバネコノメソウに相違ないと判断した(図17~22)。

1) 花茎に開出する白色毛を散生し1-2対の卵形から扇形の葉を対生する、2) 葉の縁には

3-4個の低い内曲する鈍鋸歯がある, 3) ガク裂片は広卵形で緑色, 花時に平開, 4) 花弁は無く, 苞は緑色で茎葉とほぼ同形, 5) 雄しべは8個でガク裂片より短く葯は濃黄色, 6) 花柱は短く花盤は緑色~暗紫色, 7) 根出葉は花時に枯死するものが多いが残存しているものもある, 8) 花茎の基部から花後多数の走出枝を出し, 走出枝の葉は対生する。

これによって既知の報告(地職, 2008; 2011)とは別に新たな生育地が判明し, 後日調査に赴いたところ, 本生育地は既知の生育地よりもはるかに広い範囲に群生しており, 貴重な群落であることが分かったのでその生育状況について報告する。

生育地と生育状況

生育地は岡山県鏡野町内(旧上齋原村南部)の山地斜面である(生育地保護のため詳細な山地名は控えた)。北北西向きの標高約750m前後の沢沿いで, 吉井川水系の支流の源流部にあたり, 常に湿潤な環境が保たれている。環境によって生育場所は4ブロック(生育地 a, b, c, d)に分けられ, 斜面の樹林下の腐植土の上や, 沢沿いにパッチ状の群落をつくっている。

生育地 a

本種の生育する谷の右岸は急斜面でサワグルミ, トチノキ, ケヤキ, サワシバ, ミズキなどの落葉広葉樹が林冠を覆い, ハイイヌガヤ, コマユミ, ウリノキなどの低木と, リョウメンシダ, ジュウモンジシダ, オクノカンスゲ, ミヤマイラクサなどの草本類がみられるが, 林床は比較的透いた状態にある(図23, 24)。その斜面の地上を這うように本種の群落がパッチ状に広がる。なかでも10m×5mほどの範囲において生育密度の高い場所がみられ(図25, 26), 花後走出枝を伸ばして栄養繁殖を行う本種にとって, 都合のいい環境と考えられる。秋に調査を行った際には, 地上に多数の走出枝を伸ばして対生する葉をつけ, 先に新しい株を形成しながら周囲に広がる様子を観察した(図27)。この時期の茎は短いため, 花期に見るよりも茎の白色毛は密生し, 葉の表面にも短毛が多い(図28)。

生育地 b

左岸は伐期近くまでに成長したスギ植林地となっており, 林床は比較的透いた状態にある。その林下にもパッチ状に多数の小群落が広がる(図29)。林床にはスギの落枝が厚く堆積するが, 走出枝を伸ばしながら落枝の隙間の土に根を下して新しい株を形成しており, 走出枝による繁殖はこういった環境にも有利に働くようである。

生育地 c

生育地 a と b の間を流れる沢沿いにも生育する。流れに沿った兩岸の転石上や岩上, 水際の土の上などに小さな, 時に大きな群落が50mほどの距離に渡って点在する。特に湿った岩上を覆うように広がるコケ植物の上には, 生育する確立が高い(図30)。同所的にキンシベボタンネコノメソウやタチネコノメソウ, コチャルメルソウ, サンインシロカネソウ, オククルマムグラなどが見られる。

生育地 d

a~cの生育地とは少し離れて, 林冠が開けて明るく, 染み出し水が湧き出る, 礫の多い湿地斜面にも生育する。(図31)。礫の上を這うように広がり, 比較的大きな群落をつくっている(図32)。同所的にミゾホオズキ, ミズタビラコ, オタカラコウなども生育する。

考 察

本報告の生育地は最初に発見された津山市(地職, 2008, 2010)とは, 群落サイズ・個体数ともに比べ物にならないくらい大きい群生地といえる。しかしながら, 人為の影響が及ぶスギ植林地内, 及びそのすぐ傍らであり, 将来にわたって安定した生育地とはいいがたい。今後も注意を払いつつ見守る必要があると考える。

引用文献

- 地職恵, 2008. 岡山県新産のネコノメソウ属2種及び88年ぶりに確認されたニシノヤマタイミンガサ. 岡山県自然保護センター研究報告(16): 63-66.
- 地職恵, 2010. 岡山県新産のネコノメソウ属2種

について-続報-。岡山県自然保護センター研究報告 (17) : 9-12.

岡山県編, 2009. 岡山県野生生物目録2009. 378pp. 岡山県生活環境部自然環境課, 岡山.
岡山県編, 2010. 岡山県版レッドデータブック 2009 絶滅のおそれのある野生生物-植物

編-. 354pp. 岡山県生活環境部自然環境課, 岡山.
大場秀章, 1982. ネコノメソウ属. (佐竹義輔・大井次三郎・北村四郎・亘理俊治・富成忠夫 編), 日本の野生植物草本編II, pp. 157-161. 平凡社, 東京.



図1. チシマネコノメソウ 2010年4月18日に初確認 (2010.4.18).



図3. チシマネコノメソウ 植物体は無毛, 茎葉は無いが1対が対生 (苞葉より小さい), 根生葉が残る (2011.5.12).



図2. チシマネコノメソウ 開花していても目立たない (2011.5.12).



図4. チシマネコノメソウ 茎は無毛, 花時にも根生葉が残る. 基部から走出枝を伸ばす (2011.5.18).



図5. チシマネコノメソウ 地上に細い走出枝を伸ばし、先端に新しい根生葉をつくる (2011.5.18).



図8. チシマネコノメソウ 葯が裂開すると花は目立たない。ガク裂片は黄緑色で花時平開する。苞の鋸歯は低い (2011.5.18).



図6. チシマネコノメソウ 開花直後の雄しべの葯は汚赤色 (または黄色), 8個が直立する (2011.5.12).



図9. チシマネコノメソウ 果期のようなす (2011.5.18).



図7. チシマネコノメソウ 裂開した葯と短く直立する花柱。花盤は黄緑色 (2011.05.13).



図10. チシマネコノメソウ 若い蒴果。2個の心皮の大きさは異なる (2011.5.18).



図11. チシマネコノメソウ 種子は卵円形で稜がある (2011.11.28. 押葉標本).

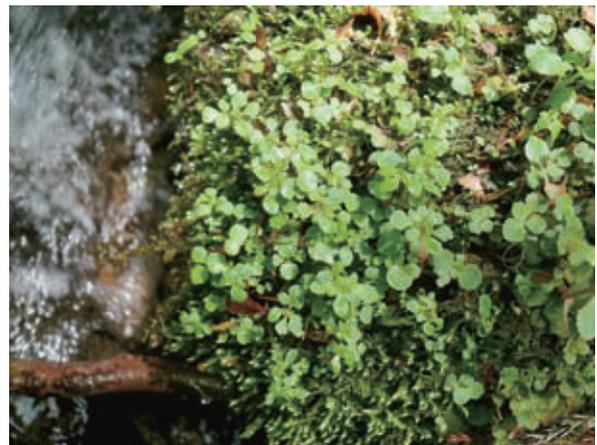


図14. チシマネコノメソウ 生育状態. コケが生える水辺の岩上 (2011.5.18).



図12. チシマネコノメソウ 越冬前のロゼット (2011.10.18).



図15. チシマネコノメソウ 生育状態. 浸み出し水のある岩上の腐植土の上 (2011.5.12).



図13. チシマネコノメソウ 生育地の環境 (2011.10.18).



図16. チシマネコノメソウ 生育状態. 沢から少し離れた腐植土の上 (2011.5.18).



図17. マルバネコノメソウ 茎に開出する白軟毛を散生，葉は対生につく (2011.4.29).



図20. マルバネコノメソウ 雄しべは8個で短く，裂開前の葯は鮮黄色 (2011.4.29).



図18. マルバネコノメソウ 葉の縁に3-4個の低い鈍鋸歯がある (2011.5.18).



図21. マルバネコノメソウ 花時の根出葉は消失する(手前)か，もしくは残る(後方，2011.5.18).



図19. マルバネコノメソウ 花には花弁は無く，ガク裂片は広卵形で平開，苞は茎葉とほぼ同型で緑色 (2011.5.18).



図22. マルバネコノメソウ 裂開を始めた蒴果 (2011.5.18).



図23. マルバネコノメソウ 生育地 a. 沢沿いの急な斜面 (2011.5.18).



図26. マルバネコノメソウ 生育地 a. 開花株 (2011.5.18).



図24. マルバネコノメソウ 生育地 a. 林床のようす (2011.5.18).



図27. マルバネコノメソウ 生育地 a. 走出枝には対生する葉がつき, 先に新植物体を形成して広がる (2011.10.18).



図25. マルバネコノメソウ 生育地 a. 生育密度の高い群落 (2011.5.18).



図28. マルバネコノメソウ 生育地 a. 伸長前の茎には白毛が目立つ (2011.10.18).



図29. マルバネコノメソウ 生育地 b. スギ植林地の落枝の上に生育 (2011.5.18).



図31. マルバネコノメソウ 生育地 d. 礫の多い湿地斜面 (2011.5.18).



図30. マルバネコノメソウ 生育地 c. 沢沿いのコケ上に生育 (2011.5.18).



図32. マルバネコノメソウ 生育地 d. 礫の上を這うように広がる (2011.5.18).